



医療安全通信 第14号

【薬局部医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

PTPシートの包装単位について

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2015年11月分には『PTPシートの包装単位による数量間違い』についての事例が掲載されています。
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2015_11.pdf

◆ 事例の内容

トラベルミン配合錠を15錠調剤するところ、18錠で調剤した。

◆ 背景・要因

トラベルミン配合錠は12錠シートであるが、うっかり10錠シートだと思い込んだ。

◆ 薬局が考えた改善策

棚や引出しから取り出した錠数を確実に確認する。12錠シートの医薬品は少ないため、10錠シートか14錠シートへの統一を製造販売会社に要望する。

◆ 事例のポイント

○ 12錠シートはトラベルミン配合錠の他、重曹錠500mg「マイラン」などがあり、PTPシートの1シートあたりの錠数については注意が必要である。

【原文のまま抜粋】

PTPシートの包装単位は、10錠シート、または、14錠、21錠といったウィークリーシートが多数を占めますが、下記に示すように1シートが6錠、8錠、12錠、15錠等の製剤もあります。包装単位の思い込みによって、シートの枚数と端数との合計が処方量と異なり、数量間違いとなった事例が多数報告されています。

日常業務の中で、製剤の色調や形・デザイン、包装単位、名称等がエラーの要因となりうることに気づいた場合、この事例の「薬局が考えた改善策」のように、製薬メーカーに改善を働きかけることも事故防止対策の一つです。

トラベルミン配合錠については、2015年8月に、ヒートシール12錠シートからPTP10錠シートに、包装変更されました。

また、同じ薬を別の医療機関で交付されていた患者が、包装単位の異なる薬品を受け取り、「違う薬をもらった」と混乱してしまうこともあります。複数の包装単位がある薬品については、自薬局の採用品以外の包装単位も認識しておき、服薬指導時に、これまで服用していたシートの種類と異なっていないか確認することも必要です。

10錠シート、ウィークリーシート以外の包装単位の薬品例

1シート 6錠
イミグラン錠50
オーグメンチン配合錠125SS/250RS
ゾーミッグRM錠2.5mg
バルトレックス錠500
ファミビル錠250mg
ファリーダックカプセル10mg/15mg
ホスレノールチュアブル錠500mg
マクサルト錠10mg

1シート 8錠
エフィエント錠5mg
ゼルボラフ錠240mg
1シート 8カプセル
イトリゾールカプセル50

1シート 20錠
エクセラゼ配合錠
1シート 20カプセル
ジアゾキンドカプセル25mg「MSD」

1シート 12錠
SPTローチ0.25mg「明治」
重曹錠500mg「マイラン」
ヘモリンガル舌下錠0.18mg
1シート 12カプセル
エクセラゼ配合カプセル
リパクレオンカプセル150mg

1シート 15錠
オプスミット錠10mg
タチオン錠50mg/100mg



医療安全通信のバックナンバーを、旭川薬剤師会ホームページ会員専用の薬局部のページでご覧いただけます。掲載資料や参考資料もダウンロードできますので、自薬局向けに改訂してご利用ください。